ねぎほ場の様子

令和7年度　第1回普及活動検討会

プロジェクト課題No.1

経営継承後の農業法人における ねぎ、うめの規模拡大と生産性向上

大河原農業改良普及センター

計画期間：令和７～９年度

対象者　：株式会社舘島田ファームDero（役員３人、社員２人）

チーム員：◎菅野雪子、髙橋真樹子、澤里昭寿、小島由美子、
中込佑介、進藤裕子

１．対象者の概要①

(株)舘島田ファームDero (角田市)

法人の変遷

H26　集落営農組織から農事組合法人へ

R6　株式会社　舘島田ファームDero

平均年齢75.5歳

→ 若手３人(30～50代)に経営継承

体制　役員３人、正社員２人、パート従業員

１．対象者の概要②

(株)舘島田ファームDero (角田市)

経営内容（R７）

土地利用型　水稲50ha、麦5ha
園芸　ねぎ3.9ha（R6から＋1.3ha）
うめ2.7ha（＋苗木130本）、その他
加工　梅干し23t（R7見込み）

販売先

農協出荷のほか、道の駅、ねぎ祭り、ふるさと納税の返礼品など

２．課題の背景①

法人の特徴

- ▹ 若手に世代交代して２年目
- ▹ 従業員を周年雇用＋新入社員
- ▹ 園芸品目・加工にも力を入れている

新入社員(左)と役員(右２人)

先進事例となる重要な法人

体制整備、技術指導が必要

２．課題の背景②

法人の目標：　令和９年の年間売上１億円

	水稲	ねぎ	梅干し
R9目標	6,800	2,000	1,200

（単位：千円）

収益向上、周年雇用のための園芸品目の強化

⇨　**ねぎの収量向上、うめの規模拡大**

適期作業の実現に向けた組織運営の効率化

⇨　**作業計画作成・管理体制の見直し**

３．活動目標と活動事項①

【令和７年度目標】

〇定性的目標

・ねぎ、うめの栽培に関わる基礎的技術と知識の習得が図られる。

・労務配分計画の進行管理のための情報共有の場が持たれる。

〇定量的数値目標

ねぎの収量　1.8t/10a

	R6 （現状）	R7	R8	R9
目標 （t/10a）	1.5	1.8	2.1	2.5

３．活動目標と活動事項②

活動事項

①ねぎの収量向上に向けた栽培管理指導

②うめの新改植に向けた栽培管理指導

③労務配分計画作成及び実施への支援

４．活動状況①

①ねぎの収量向上に向けた栽培管理指導

現地巡回による栽培技術の指導

→育苗：温度管理・かん水等の指導

防除：適期防除の共有、作業優先度の検討

◎苗質が向上した

優先順位をつけた管理作業を意識できた

定植作業の様子

４．活動状況②

①ねぎの収量向上に向けた栽培管理指導

防除暦の提案・防除適期の共有

→法人に合った
防除スケジュールの作成支援

施肥体系の改善

→土壌分析の結果をもとに
追肥の回数、成分量の見直しを提案

ねぎほ場の様子

４．活動状況③

②うめの新改植に向けた栽培管理指導

苗木育成の現地指導

・時期に合った情報提供

→従業員にも指導し、
法人全体の技術向上を図った

◎苗木管理の重要性の認識が向上

苗木管理についての現地指導

４．活動状況④

②うめの新改植に向けた栽培管理指導

現地巡回による成木の管理指導

→適期防除の呼びかけ、
作業省力化のためのせん定指導

◎発生が多かった害虫の被害抑制

成木管理についての現地指導

４．活動状況⑤

③労務配分計画作成及び実施への支援

役員による打ち合わせの実施呼びかけ

→話し合いの場を設け、
　各品目の計画・状況を共有

◎作業のヌケ・モレが減った
　人数配置などの共有が円滑になった

打ち合わせの様子

４．活動状況⑥

③労務配分計画作成及び実施への支援

４～７月の作業の振り返り

→良かった点や課題を確認

進捗管理、振り返りの方法の検討

→シートの記録による

進捗管理、振り返りを提案

◎記録・共有の重要性を再認識

代表との打合せの様子

	水稲		
	計画	進捗	やり残し
7/28～8/3			
8/4～8/10			
8/11～8/17			

提案した振り返りシート（一部）

５．今後に向けて

①ねぎの収量向上に向けた栽培管理指導

- ▹ 収量調査及び今作の振り返り
- ▹ 次作に向けた技術指導（防除、育苗管理）

②うめの新改植に向けた栽培管理指導

- ▹ 新植に向けた苗木育成、ほ場準備等の指導
- ▹ 成木のせん定（低樹高化）等の指導

③労務配分計画作成及び実施への支援

- ▹ 法人に合った管理体制の検討
- ▹ 作業時間の可視化による労務配分の見直し

梅の天日干しの様子

ご清聴ありがとうございました